内閣総理大臣　安倍 晋三 様
厚生労働大臣　柳澤 伯夫 様

柳澤厚生労働大臣の発言に抗議し辞任を求める声明

1月27日、柳澤厚生労働相が、松江市での自民党県議の後援会の集会で、女性を子どもを産む機械や装置に例える発言をしたことに対し、大いなる憂いを持って抗議いたします。

発言の経緯は、新聞の取材によれば「人口推計の話をした時（聴衆が）よく分からないようだったので例えて言ったのであり（発言した）途端に、これはまずいと思い失礼をした、申し訳ないとお話しした」と伝えられています。

しかし、大臣は集会の中で更に「15～50歳の女性の数は決まっている。産む機械、装置の数は決まっているから、あとは一人頭でがんばってもらうしかない」と発言を繰り返しています。後で、「女性への差別的意識は全くない」と釈明していますが、女性の人権を無視した発言であることは明らかです。

今回のことは、少子化という問題の原因究明を棚上げにしており、女性の存在を問題解決の手段として考え、生まれてくる子どもの数を目的とするという施策を暴露しています。これはいのちを大切にする思想とはかけ離れたものです。言うまでもなく女性は一人の人間として人格と意思を持っており、出産の有無が女性の尊厳を左右するのではありません。

また、子どもを望む女性が安心して生み育てる環境整備に尽力することが厚生労働省の役割であり、単なる出産の奨励機関ではないはずです。

安倍総理は女性の人権をないがしろにするような発言をされた柳澤大臣の続投を明言していますが、総理が望む大切な職務は柳澤大臣に任せることは出来ません。野党のみならず与党からも「謝罪だけではすまされない」という声が上がっている中でなお、擁護する安倍総理自身の人権感覚を疑わざるを得ません。政治家としての保身に走らず、謙虚に周囲の声に耳を傾けることを望みます。

私たちはここに柳澤厚生労働大臣の辞任を強く求めます。

「そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。」
（ガラテヤの信徒への手紙3章28節）

2007年 2月 1日
日本バプテスト連盟　性差別問題特別委員会